

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2762 号	氏 名	樋口 明子
論文審査担当者	主査 小林 洋一教授 副査 泉崎 雅彦教授 副査 大塚 成人教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>2 型糖尿病患者 42 例を対象に、疼痛の数値評価スケール (numerical rating scale: NRS) と自律神経障害の指標である心電図 R-R 間隔変動係数 (coefficient of variation of R-R interval: CVR-R), Schellong 試験の血圧変化量との関連性を検討した.</p> <p>末梢神経障害を有さない患者を No DPN(diabetic polyneuropathy), 末梢神経障害を有し、疼痛を自覚していない患者を Painless DPN, 疼痛を伴う患者を Painful DPN に分類した. Painful DPN の CVR-R と最大血圧変化量は他 2 群より有意に低値であった. 痛みとしびれの NRS と最大血圧変化量は、有意な負の相関を認めた.</p> <p>本研究により Painful DPN の自覚症状である疼痛の強さが他覚所見である自律神経障害の程度を反映することが初めて示された.</p> <p>本論文が新しい知見を得ており、学術上価値があるものと考えられる。</p> <p>論文題名：有痛性糖尿病性神経障害における疼痛の強さは自律神経障害の程度を反映する</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌, 第 76 巻 3 号 2016 年掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)